

多波長データ解析システム 定期データ削除 運用方針

多波長データ解析システム ユーザの皆様

日頃のご利用ありがとうございます。

多波長データ解析システム・作業用ディスク領域の使用率が増加しておりますので、2019年10月度の定期メンテナンスから定期データ削除を開始いたします。なお、定期データ削除実施について、以前のシステムとは異なる部分がありますので、ご注意ください。

0. 現システムでは、定期メンテナンスを3か月に1回実施します

1月、4月、7月、10月の第3月曜日の予定ですが、祝日等の影響で変わる場合があります。

定期メンテナンスの1か月前には、確定した作業日時を連絡いたします。

1. データ削除の対象となる領域：使用率が90%以上の作業用ディスク領域(/lfs[01-16],/wk[m,h]*)

使用率が90%未満の領域は定期データ削除を実施いたしません。

定期メンテナンスの1か月前にディスク使用状況について連絡いたします。

また、使用率の高い領域については、随時連絡いたします。

2. 削除対象となるデータ(ファイル)：タイムスタンプ(ctime)から12ヶ月以上経過したファイル

この判定基準は、NFS領域(/lfs*)・ローカル領域(/wk*) 共通になります。

ファイル等の ctime については、ls -cl コマンド等で確認できます。

また ctime は、ファイル状態情報を変更した時間です。

3. 削除対象領域の決定：定期メンテナンスの2週間前

作業の都合上、一度削除対象に決定した領域は、決定後にディスク使用率が90%以下になった場合でも定期データ削除作業を実施します。

4. 削除ファイルの最終決定と削除作業の実施：定期メンテナンス時

最終的な削除ファイルの確定は、定期メンテナンス開始時になります。

また、定期メンテナンス作業内でデータ削除を実施いたします。

今後は、上記の方針に基づいて定期データ削除を行いますので、平時から定期的なデータ整理・バックアップ作業をお願いいたします。なお、削除されたファイルについては復旧不可であり、またデータ削除による不利益等については当方で責任を持ちかねますので、予めご了承ください。

ご理解ご協力の程よろしくお願いいたします。

2019年9月

天文データセンター